

インクルーシブの窓

令和6年7月 富山県教育委員会教育みらい室特別支援教育課



「ふれEYEフェア」が開催されました！



6月29日（土）、富山視覚総合支援学校において、今年度の第1回ふれEYEフェアが行われました。視覚障害者ITサポートとやま主催の「見えない・見えにくい人のための生活便利グッズ展示&相談会」との同時開催で、会場には、盲導犬歩行や白杖歩行等の体験のコーナーも設けられていました。

富山視覚総合支援学校の学習の体験コーナーでは、点字図書の他、凸線で描かれた地図やイラスト等の触覚教材、点字を常用して学ぶ児童生徒のための点字タイプライタ（右写真）やICT機器に触れることができました。

視覚障害のある児童生徒が、保有する視覚の活用と視覚以外の諸感覚を活用して学ぶことの大切さを知りました。



一日の学習予定表です。文字が白色、地が黒色のコントラストになっています。



日付の数字や曜日が半立体的になっており、触り心地もよいように工夫されています。



左の写真は、生活便利グッズのコーナー（一部）です。どれも、日常生活や余暇活動で使いやすいように、形や大きさ、手に取った時の感触等にも工夫が施されています。

グッズは、視覚に障害のある人にとって必要なものであり、視覚に障害のない人にとっても、あると便利なものではないかと感じました。

弱視体験コーナーでは、数種類の弱視シミュレーションレンズを使って、見えにくい世界を感じることができました。視覚障害は視力のことが取り上げられがちですが、視機能に障害がある人の学習や生活上の困難さに思いを巡らすことも障害理解の第一歩と言えるのではないのでしょうか？

富山視覚総合支援学校の担当者は、「今回のようなフェアや、視覚障害を対象とした県内唯一の特別支援学校のセンター的役割を通して、視覚障害への理解を県民に広めていきたい」と話していました。